

かわら版



KAWARA BAN

巻頭言「レジリエンスの向上に向けて」



北海道キャンプ協会理事 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立日高青少年自然の家 次長 佐藤 英樹

みなさまこんにちは。今年の北海道は記録的な暑さが続いており、 7月28日の旭川市では37.6℃と、日本列島で一番の暑さになりました。 そして6月下旬からの降水量は平年の10%を下回っている所がありま す。まさに異常ではないかと感じています。

さて、このような天候が続くと気になるのは「災害」です。昔から 「災害は忘れたころにやってくる!」と言われておりますものの、近 年は毎年のように各地で災害が起きております。大雨による静岡県熱 海市の土石流は記憶に新しいところです。さらにコロナ禍のためソー

シャルディスタンスを確保した避難所運営など、以前にも増して災害に対して準備や検討を重ねる必要があります。

このような中、当機構は内閣府の「国土強靭化年次計画2020(令和2年6月18日閣議決定)」の中で「広域防災補完拠点」として位置付けられ、当施設は昨年、「日高町」、「平取町」、「占冠村」と災害時の協定を締結し、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、各地域の防災計画に定める施設等だけでは、災害対策業務に支障が生じると判断した場合は、当施設が避難所、物資集積場所及び支援車両等の駐車場として迅速に利用できるようになりました。今後はお互いの備蓄物品を共有することや避難所運営の研修などを計画しているところです。

また広域防災補完拠点には防災・減災教育拠点としての役割もあり、令和2年度から令和6年度までの5か年計画で防災・減災につながる体験プログラムを開発し、学校をはじめ、関係機関に普及することを目指しております。そのため当施設の体験活動推進専門委員のみなさまと協議を重ね、防災・減災に必要な資質・能力には形式知(自然に関する知識、災害に関する知識、避難行動や避難所生活に関する知識など)と暗黙知(生命を維持するための生理的行動、自然に対する身体感覚、ストレスを軽減・解消する感覚や方法、家族や友人を大切に思う気持ち、主体的に取り組もうとする気持ちなど)の側面があり、さらに平成30年に発生した北海道胆振東部地震の復興状況についてもご意見をいただき、今なお被災地では暗黙知の側面の向上が課題となっていることが分かりました。

当施設では暗黙知のひとつであるレジリエンス(困難な状況に直面してもそれをしっかりと受け止めて乗り越えていく心身の回復特性)を取り上げ、今年度より、北海道教育大学岩見沢校野外教育学研究室と連携し、レジリエンスの向上に資する体験活動のあり方について研究することとしました。

これを解明することによって、自然災害や感染症などによる子どもたちの心身の問題を解決するための有効な示唆が得られるのではないかと考えております。

この取組が当協会の会員のみなさまにとってもお役に立てば幸いです。

2021年度 第1回理事会開催

7月7日(水)、協会関係団体の北海道YMCAにて2021年度第1回理事会が開催されました。対面式とオンラインを併用したハイブリッド形式での理事会となりました。2020年度の事業報告並びに収支決算、新年度予算の修正案、創立30周年記念事業などについて協議されました。主な内容を以下に報告致します。

【2020年度の主な事業トピック】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、協会事業及び各部事業については「かわら版」の発行とインストラクター養成講習会(大雪会場)を除いて自粛対応となりました。コロナ禍における協会事業やキャンプのあり方、また指導者養成の手法等について、新たな方法を試行することが求められています。キャンプインストラクター養成講習会は、2019年度に引き続き国立大雪青少年交流の家との共催で、対面式で10月に開催することができ、20名の参加者が与えられ、うち19名の方がインストラクター登録をしました。協会広報紙「かわら版」は10月、3月に発行し、各団体のコロナ禍での取り組みを紹介しました。

【2021年度事業計画のポイント】

新年度の各部の主な事業計画は以下の通りです。

- 1) 養成事業部
 - ①キャンプインストラクター養成講習会は、7月に大雪会場、10月に札幌会場で、コロナ 感染対策を実施しながら対面形式で実施する予定です。また、隔年実施のキャンプディ レクター2級養成講習会は、昨年から延期となっていましたが、創立30周年記念事業の 一環として来年度に実施することになりました。
- 2) 啓発・ユース養成部
 - ①新型コロナウイルス感染状況に配慮し、オンラインを活用した指導者交流会を検討します。
 - ②北海道キャンプ協会創立30周年の2022年度に向け、記念事業の素案作りの準備を進めるとともに、プレ事業の検討をします。
- 3) 広報部
 - ①北海道キャンプ協会の総合案内としてリーフレットを作成します。
 - ②広報誌かわら版を3回発行します。
 - ③インターネットを活用したコミュニケーションの強化と充実に努めます。
- 4) 事務局
 - ①運営管理のシステム化を推進するとともに、安定的な収益の確保を目指した取り組みを 進めるため事務局体制を増強します。
 - ②2022年度に実施予定の設立30周年記念事業について、今年度中に主な事業内容について決定していきます。
 - ③創立30周年に向け、継続して協会の未来ビジョンの策定を進めます。

【創立30周年記念事業について】

北海道キャンプ協会は、2022年度に創立30周年を迎えます。記念事業の準備に向けて以下のように動き出しました。

- ①啓発・ユース養成部を中心にプロジェクトチームを発足し、事業内容の検討を進めます。
- ②本大会のメイン会場を定山渓自然の村を候補に検討を開始します。
- ③2021年度中にプレ事業の開催を検討します。
- ④ディレクター2級養成講習会を記念事業として本大会に合わせて実施します。
- 今後も記念事業に関する情報をかわら版で発信していきます。

2021年度収支予算概要

各部事業計画を踏まえて積算された2021年度の収支予算は以下の通りです。

2021年度北海道キャンプ協会収支予算			
科目	2020決算	2021年予算	摘要
入会金・会費収入	572,000	520,000	入会金・支部年会費
補助金収入	0	50,000	日本キャンプ協会旅費補助
事業収入	463,000	610,000	講習参加料・講師派遣
その他収入	12	1,200	利息等
経常収益計	1,035,012	1,181,200	
事業費	115,070	605,000	賃借料・通信運搬費・印刷製本費等
管理費	529,341	576,200	事務局維持費・印刷製本費・通信運搬費・旅費交通費等
経常費用合計	644,411	1,181,200	
正味財産増減	390,601	0	
前期繰越正味財産額	2,886,733	3,277,334	
次期繰越正味財産額	3,277,334	3,277,334	

キャンプインストラクター講習会

今年も7月23日(金)~25日(日)の2泊3日、大雪青少年交流の家 にて「青少年教育スキルアップセミナー」として講習会(兼NEALリー ダー養成事業)を実施しました。昨年同様、コロナ禍での開催となり ましたが、感染予防対策に関しては施設の全面的なご協力により、参 加者の皆さんも不安を抱えることなく講習に臨め、無事17名の方が試 験に合格し登録されました。では講習の主な内容をご紹介します。



<1日目>

参加者同士の交流も兼ねたアイスブレイクから始まり、後半は座学 中心に学びを深めました。会場までの移動に時間をかけて参加された 方もいましたが、皆さん疲れも見せず元気に参加されました。



<2日目>

昨年まで10月開催だったことから気温等の関係で実施できなかった ソロビバーク体験に向け実技を中心に進めました。テント、ブルー シート等から自ら選択した道具を使って互いに協力しながら設営する 中でさまざまな技術を学びました。

夜は焚き火を囲みながらこれまでの活動やキャンプ技術について語 り合い、さらに交流が深まりました。



<3日目>

ソロビバークのふりかえりのあと撤収、その後眠たい目をこすりな がら試験に向けた復習をしたあと試験に挑戦しました。

今年は学生からベテランの学び直しまで年齢もばらばらだったことか ら、終始和やかな雰囲気の中で講習を進めることができました。3日間 の講習で学んだことを生かすことと同時にここで出会った仲間の交流 がこれからも続いていくことを願っています。

また会える日を楽しみにしています!

コロナ禍における各団体の取り組み④ **滝野自然学園**(NPO法人ネイチャープログラムデザイン)

滝野自然学園は、旧滝野小学校の校舎をそのまま利用した、今では珍しい木造の野外教育施設です。滝野小学校廃校後、1971年より札幌市所有の施設として宿泊学習やキャンプ事業等に利用されてきましたが、2009年に公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会(以下、活動協会)が土地建物を購入し、現在は活動協会が所有する自主運営施設として利用されています。

コロナ禍が続く現在、外出自粛などでストレスを抱える子どもや母親が増加しているという調査結果がありますが、こんな時だからこそ、安心していつでも使っていただけるように準備し、開けておくことが大切なことだと考えています。そのため、利用する、利用しないはお客様個人々々の判断になりますが、滝野自然学園を閉館して利用者をシャットアウトすることがないように、十分な感染症対策を取ったうえで事業の継続を図ってきました。

感染リスクを抑え、安心して使っていただくための取り組みのひとつとして、利用人数は定員の6割程度を上限としています。また、施設の衛生管理等については、厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症の予防」や「新北海道スタイル」に基づいて、室内の換気や消毒をおこなうとともに、うがいや手洗いの励行、検温やマスクの着用などをお願いしています。

滝野自然学園の利用については、大きく分けて「一般利用(貸館)」と「活動協会事業」となりますが、コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、「一般利用(貸館)」は団体数、利用人数とも大幅に減少しています。利用されるお客様の判断によることで、これはやむをえないことと認識しています。また、滝野自然学園を会場とした「活動協会事業」は、北海道が緊急事態宣言の期間中は中止または延期といたしましたが、それ以外は極力子どもたちの野外体験活動の場を減らすことがないように十分な衛生管理等をおこなったうえで、実施してきました。

月2回程度定期的に開催している「森のようちえん」は、幼児親子を対象に受け入れ人数を縮小して、シャボン玉や泥んこあそび、森のお散歩や畑の収穫体験など、親子でゆったりとした時間を楽しんでもらえるプログラムを実施しています。また小学生を対象とした「森のがっこう」では、川の探検やツリークライミングなどの野外活動をおこなっています。参加者の保護者からは「コロナのため子どもが外で思い切り遊ぶ機会が少なくなっているときに、このような事業はとてもありがたいです」といった声をいただいています。

コロナ禍の今だからこそ必要とされる滝野自然学園でありたいと思っています。



えぞっぷメンバー募集!

北海道キャンプ協会には、次世代若手指導者団体である「えぞっぷ」という組織があります。「えぞっぷ」では様々な活動を計画し、北海道におけるキャンプ活動の推進を図っています。若手ならではのエネルギッシュな企画や新たな視点での活動が実施されています。これから創立30周年記念事業の企画が始まります。ぜひ皆さんも「えぞっぷ」に入り一緒に活動しませんか?興味のある方は北海道キャンプ協会事務局までご一報下さい。

【活動実績】

北海道キャンプフェスタ、指導者交流会、日本キャンプミーティングでの発表、活動報告会など

北海道キャンプ協会

〒005-0862 北海道札幌市南区滝野106番地 NPO法人ネイチャープログラムデザイン内 TEL&FAX 011-596-9170 (メール hokkaido@camping.or.jp URL https://www.hokkaidocamp.com/wp/

発行:北海道キャンプ協会広報部 編集:坂谷充